平和への思いを語り継ぐ使命

中沢中学校　米澤　愛里菜

「平和とは何か」と問いかけられたら、私は真っ先に「戦争が起こらないこと」と答えるだろう。

そのように考える理由は、戦争が起こらなければ失われなかったものや、傷つけられなかったものが沢山あるからだ。

私がこのような考えを持つようになったのは、私が小さい頃に母が曽祖父母の戦争中の経験を教えてくれたことと、曽祖母のその経験が書いてある日記を読んだことがきっかけだ。

私の曽祖父母は第二次世界大戦の時に満州へ行った。当時の日本の人々は「日本のために尽くす」という考え方だったといい、曽祖父母は強い覚悟を持っていたそうだ。

看護師だった曽祖母は二十歳の時、「人々を助けたい」と思い、満州へ行った。満州での生活は安定している時もあれば、食事をまともにとれない時もあった。そんな中、曽祖母は子供を産むが、生まれてから二ヵ月もたたないうちに、栄養失調で亡くなってしまった。

曽祖母の日記を読んで、当時の曽祖母と私は五つほどしか変わらないのに、「自分の命を犠牲にしてでも人々を助けたい」という気持ちを行動に移している姿に、感銘を受けた。

そして、「第二次世界大戦について更に知りたい」と思い、調べてみた。それで、曽祖父母と同じような状況にいた人々が、大勢亡くなっていたことを知り、「戦争というものは、本当に悲惨なものだな」と思った。

私は、趣味や好きなことに打ち込む時間があって、充実した日々を過ごしている。それを当たり前のように思っていたが、戦争中の人々は、心身ともに追い詰められている中、明日生きているかどうか分からないというのが現実だったということに、戦争の恐しさを感じた。そして、戦争は絶対に起こってはいけないと思った。

これからの時代の平和を守るために、何ができるのだろうと考えると、「相手を思いやり、平和な心を持つこと」、「戦争で苦しい思いをした人々の気持ちを考え、その気持ちから感じたことをこれからの人生に活かしたり、その人々の気持ちを忘れたりしないこと」が大切だと、私は考える。

前述について詳しく言うと、日頃から相手に心のこもった言葉をかけ、自分も相手も良い気持ちになるようにすることだ。

後述について例を挙げると、今まで私は食べ物に好き嫌いがあるからといって、「これは嫌いだから食べない」というような考えを持ったり、目の前にある食べ物を残したりしたことがあった。けれど曽祖父母の亡くなった子供の気持ちを考えると、「なんて失礼なことをしていたのだろう」と深く思った。

改めて日本が平和だということを感じて、曽祖父母のような戦争で苦しい思いをした人々が私たちに、「戦争を起こしてはいけない」ということを伝え、今の平和な日本を築いてくれたことに、感謝の気持ちでいっぱいになった。今の平和な日本を維持したり、世界平和と向き合ったりすることが大切だと考える。

また、曽祖母が後世の人々のために戦争中の日記を残してくれたり、母が私に曾祖父母の体験を教えてくれたりしたように、私も戦争の残酷さと平和への思いを世界中の人々に伝えたい。

「今の生活が平和だということ」、「その平和は当たり前ではないこと」、「戦争で犠牲になったり、苦しい思いをした人々の思いを無駄にしないこと」これらのことを忘れないで、これからの人生を歩んでいきたい。